

Somewhere Sometime Something

先史時代の壁画や彫刻について書いている本を読んでいると、その時代と現在の興味の対象にあまり変わりがないことに気づく。人間、植物、動物など。私たちは、言葉を話す前から、この世界に対して興味を持ち、それを彫刻や絵にしていた。

何が彼らにそれらを理解、表現させたのか。

私が何かを作る時に考えることを突き詰めていけば、この世界とは一体何か？この世界の中にいるわたしは何なのか？という子供の頃を感じ、考えるような根源的な問いにぶつかる。そしてその問いは、子供時代だけでなく現在も続いているし、私だけでなく過去・現在・未来で多くの人々が一度は考えることではないだろうか。この世界を知るため、またはこの世界の謎の一端に触れるために動物や人間を彫刻している。そして、世界の中にいる私の中にある世界に対しても、同じように考え制作をしている。自分とは一体何か？世界が持つ謎も、私を動かす体の中の物質も、目に見ることはできない。だから、彫刻や絵にし、捉えている。

Somewhere Sometime Something = 「どこか・いつか・なにか」

この根源的な問いを持つ人々との繋がり、また、私が何かを作る時に、「今・ここ」だけではなく、過去・現在・未来のどこかの人々と繋がることのできるのではないかと思い、展示のタイトルとした。

2022.10 亀元 円